

## 学会からの5つの約束

- 1, **ビジネスに直結**  
常に企業のビジネスに結びつく話題提供を行います。
- 2, **ニーズに対応**  
企業のニーズに対応した大学や研究者情報を紹介し、仲介役を積極的に担います。
- 3, **早い審査**  
投稿者にとって迅速で質の高い論文審査を行います。
- 4, **研究者育成**  
学生や若手研究者の研究活動を積極的に応援し、研究者を育てます。
- 5, **年会費**  
入会初年度の正会員の年会費を無料にします。

## 学会の事業推進活動

- ・事業検討委員会
- ・出版事業委員会
- ・経済特区事業委員会
- ・エコツーリズム事業委員会
- ・エコヴィレッジ事業委員会
- ・宇宙居住委員会
- ・国際都市環境事業委員会
- ・新アグリシステム委員会



## 学会からの情報発信

- ・学会誌「生態工学」  
(年4回(1, 4, 7, 10月)発刊)
- ・SEE Quickニュース
- ・年次大会  
(例年6月開催)
- ・定例研究会(年3回)
- ・シンポジウム



## ■沿革

1988年8月 CELSS研究会が発足(第1回総会)し、1993年5月 日本学術会議にCELSS学会として名称登録しました。  
2001年9月は生態工学会に名称変更を行い、現在に至っています。この間、近藤次郎(日本学術会議会長(当時))、不破敬一郎、相賀一郎、新田慶治、玉浦裕、大政謙次、2013年より竹内俊郎が会長を務めています。

## ■第七期役員名簿(2013年6月より2年間)

会長 竹内俊郎  
副会長 木部勢至朗、北宅善昭、船田 良、白石文秀  
特別理事 玉浦 裕、大政謙次、西崎進治、水谷 広、  
泉谷直昭、田澤信二  
総務理事 渡邊博之  
企画理事 北宅善昭  
表彰理事 船田 良  
広報理事 齋藤高弘  
国際理事 白石文秀  
事業推進 高山弘太郎  
編集理事 谷 晃  
出版理事 大政謙次  
庶務理事 土肥哲哉(総務担当)、寺添 斉(企画担当)、  
中根昌克(編集担当)、細井文樹(表彰担当)、  
萩原昌司(広報担当)、石川洋二(国際担当)、  
高山弘太郎(事業推進担当)、  
新井真由美(次世代科学社会活性化担当)

会計理事 宮嶋宏行

事業推進委員会 高山弘太郎  
次世代科学社会活性化委員会 富田-横谷香織

## 支部活動推進理事

|        |    |     |      |
|--------|----|-----|------|
| 北海道・東北 | 支部 | 支部長 | 皆川秀夫 |
| 関 東    | 支部 | 支部長 | 江村 薫 |
| 中部・東海  | 支部 | 支部長 | 田中逸夫 |
| 関 西    | 支部 | 支部長 | 向阪信一 |
| 中国・四国  | 支部 | 支部長 | 仁科弘重 |
| 九州・沖縄  | 支部 | 支部長 | 白石文秀 |



生態工学会のロゴマーク

人間を中心に、エネルギー源である太陽と技術を象徴する歯車を描き、周囲に生態系を構成する動物と植物を配置したものです。

## 生態工学会事務局

〒164-0003

東京都中野区東中野4-27-37 (株)アドスリー内

生態工学会事務局

TEL : 03-5925-2840 FAX : 03-5925-2913

e-mail : office@see.gr.jp

URL : <http://www.see.gr.jp/>



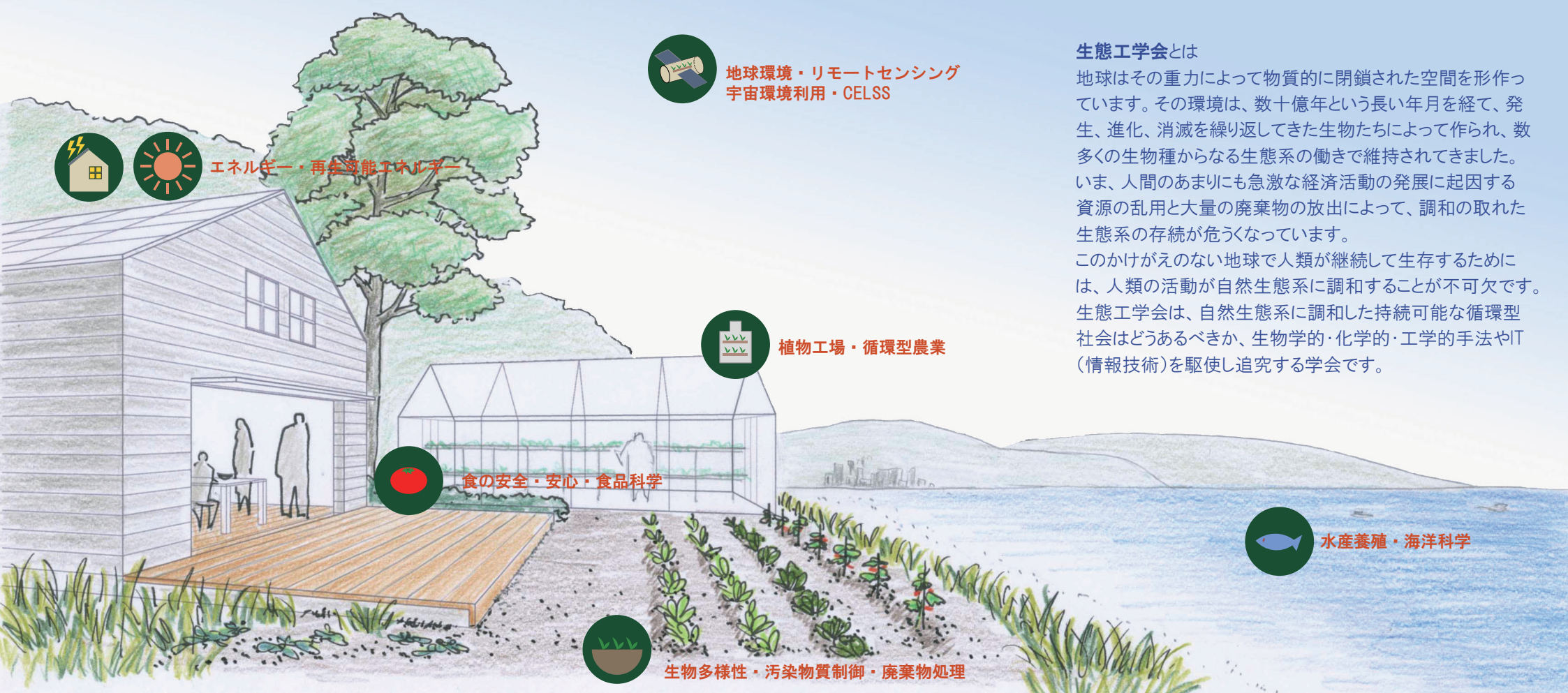
# The Society of Eco-Engineering

## Since 1988

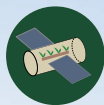


# 生態工学会

URL : <http://www.see.gr.jp/>



エネルギー・再生可能エネルギー



地球環境・リモートセンシング  
宇宙環境利用・CELSS



植物工場・循環型農業



食の安全・安心・食品科学



生物多様性・汚染物質制御・廃棄物処理



水産養殖・海洋科学

## 生態工学会は、生態系に関わる広い工学分野を活動の領域にしています。

- ・畜産を核とした畑作・稲作との資源連携による持続農業の追求
- ・微生物生態系（マイクロコズム）の理論的研究
- ・Ce-Zr系酸化物を用いた二段階水分解反応によるソーラー水素生産
- ・マイクロコズムの数学モデル系の多様性と安定性一
- ・有機廃棄物の再資源化システムの開発に関する一連の研究
- ・光環境制御による植物の成長および形態形成の調節に関する研究
- ・地球システムにおける物質・エネルギーフローの基礎研究とその応用
- ・新しい光計測技術を用いた食品の品質および機能性の評価手法開発に関する研究
- ・クロロフィル蛍光画像計測法によるハイゴケの光合成機能解析
- ・アカマツ森林群落内のモノテルペン高度分布
- ・蛍光計測を用いた Amphidinium sp. の濃度測定：培養時の光質が増殖速度に及ぼす影響
- ・有機農業を旨とした飼料用トウモロコシ栽培における雑草がその生育および収量に及ぼす影響
- ・高清浄度野菜の生産に向けた衛生管理技術の検討

- ・光触媒反応における反応速度低減因子の同体とこれらを除去した高性能光触媒反応システムの開発に関する研究
- ・木質バイオマスの形成機構に関する一連の研究
- ・閉鎖型生態系実験施設の要素技術に関する研究
- ・植物と大気の間微量気体交換に関する生態工学的研究
- ・微細藻類の培養密度および培養液厚の変化に伴う透過光の減衰
- ・カセット式魚類養殖技術に関する研究
- ・濃縮海洋深層水の高品質トマト水耕栽培への有効利用1. 果実品質に対する短期施用の効果
- ・閉鎖生態系循環型養殖システムの開発に関する一連の研究
- ・超音波音環境が人間の生理・心理に与える一連の研究
- ・水産資源増殖構造物の流動制御と生物集機能
- ・保全耕うんおよび慣行耕うんを施した火山灰土からの土壌および肥料成分の流出特性
- ・大型閉鎖系実験施設G E E Fの植物栽培システムに関する研究
- ・CEEFFでの廃棄物処理に用いられる触媒ならびに流出防止材の劣化について
- ・根における水および元素の吸収速度の動的評価
- ・可搬型Scanning Lidarを用いた地表面と樹冠高の三次元計測

### 生態工学会とは

地球はその重力によって物質的に閉鎖された空間を形作っています。その環境は、数十億年という長い年月を経て、発生、進化、消滅を繰り返してきた生物たちによって作られ、数多くの生物種からなる生態系の働きで維持されてきました。いま、人間のあまりにも急激な経済活動の発展に起因する資源の乱用と大量の廃棄物の放出によって、調和の取れた生態系の存続が危うくなっています。このかけがえのない地球で人類が継続して生存するためには、人類の活動が自然生態系に調和することが不可欠です。生態工学会は、自然生態系に調和した持続可能な循環型社会はどうあるべきか、生物学的・化学的・工学的手法やIT（情報技術）を駆使し追究する学会です。

- ・階層的リモートセンシングと地理情報システムによる生態工学的研究
- ・屋内樹木の生育制御に関する研究
- ・マテリアル・エネルギー・フローに関する一連の研究
- ・光による昆虫行動の物理的制御法を用いた生態工学的な昆虫制御技術の開発
- ・微小藻類の in situ クロロフィル蛍光顕微画像計測
- ・NOAA/NDVI10日間コンポジット画による積雪および消雪時期の評価
- ・集光太陽エネルギーの化学エネルギー変換に関する研究
- ・CELSSにおける植物生産システム構築のための環境調節法に関する研究
- ・Spatial and Temporal Change of Microcystins Concentration in Eutrophicated Lakes in Japan
- ・生態工学的手法を用いたカキ種苗の大量高速生産システムの開発
- ・動物プランクトン利用による微細藻類のバイオマス変換